

令和 6 年 8 月 7 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 6 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
7月	1	27.7	25.5	31.2	29.2	25.6	22.7	141	96	12.9	16.7
	2	29.8	26.3	33.4	30.2	27.6	23.3	1	87	26.6	20.8
	3	25.1	27.0	28.0	31.2	23.0	23.8	218	64	6.4	24.9
	4	28.6	27.6	32.8	32.1	25.6	24.3	11	44	22.4	28.8
	5	30.9	28.2	36.1	33.4	27.9	24.7	1	36	54.8	32.0
	6	30.9	28.6	36.1	33.4	26.7	25.0	0	39	68.9	41.1
8月	1	31.7	28.8	37.1	33.7	27.6	25.1	4	31	47.5	35.0

【7月 31 日～8月 5 日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.8℃高かった。

降 水 量：平年比 9%と少なかった。

日照時間：平年比 140%と長かった。

2. 管内の生育概況

- ・ 6 月上旬移植の「夢しずく」で間もなく出穂期を迎える。
- ・ 中晩生品種では「ヒノヒカリ」で幼穂形成期頃となっており、「さがびより」でもまもなく幼穂形成期を迎える。
- ・ 中晩生品種では有効茎数が確保され、葉色がさめ始めた圃場が多い。

3. 情報田生育調査結果（8月6日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	97.4	77.3	68.6
平年値（平年比）	92.6(105)	74.7(104)	66.9(103)
茎数（本/m ² ）	261	511	754
平年値（平年比）	334(80)	472(108)	687(110)
葉齢（L）	13.7	12.6	13.4
平年値（平年差）	12.8(+0.9)	12.6(±0)	12.9(+0.5)
葉色（SPAD値）	40.8	39.7	40.2
平年値（平年差）	34.1(+6.7)	40.8(-1.1)	37.9(+2.3)

概況

生育

草丈：全品種でやや高い。

茎数：「夢しずく」は少なく、「さがびより」「ヒヨクモチ」は多い。

葉齢から見た生育の早遅：

「夢しずく」は進んでいる。「さがびより」は平年並み。「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。

葉色（SPAD値）：「夢しずく」「ヒヨクモチ」は高く、「さがびより」はやや低い。

出穂の状況：「夢しずく」は1割程度出穂している。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

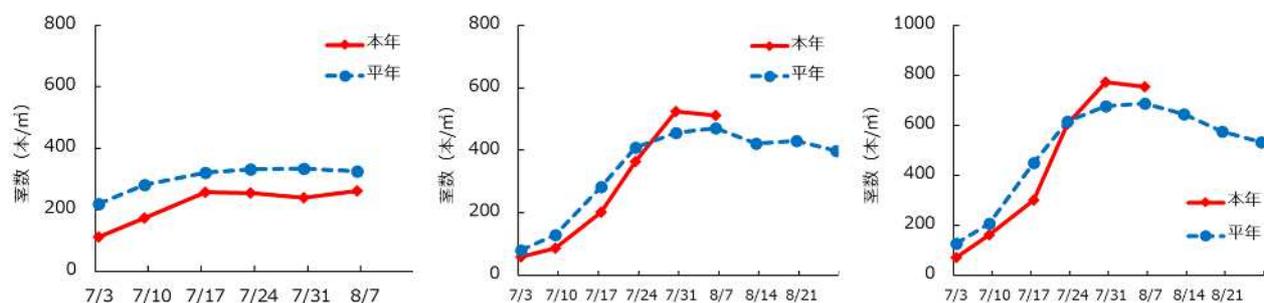


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

(参考) 農業試験研究センター米づくり情報 6号 R6年 8月 6日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月18日	夢しずく	本年	91.8	349	12.6	40.8	[気象] 7月30日～8月5日まで ◆平均気温…平年より2.7℃高い ◆日照時間…長い(平年比146%) ◆降水量…少ない(平年比8.1%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」は 少なく、「ヒヨクモチ」でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」は平年並み、 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや多い。 ◆葉色 「夢しずく」はやや濃い、「ヒノヒカリ」 「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は 淡い。
		平年	83.0	407	12.6	39.5	
		平年比(差)	111	86	±0	+1.3	
	ヒノ ヒカリ	本年	82.0	471	12.8	37.9	
平年		74.8	513	12.4	37.5		
平年比(差)		110	92	+0.4	+0.4		
6月20日	さが びより	本年	80.7	465	12.6	38.3	
		平年	71.8	505	12.6	38.6	
		平年比(差)	112	92	±0	-0.3	
	ヒヨク モチ	本年	72.6	763	13.2	36.4	
平年		65.9	737	13.0	38.5		
平年比(差)		110	104	+0.2	-2.1		
留意点	○ 草丈は各品種とも前回より10cm～15cm伸長した。生育期間全般が高温であることと、6月下旬と7月3半旬の日照不足により、徒長して以降平年より高く推移している。 ○ 茎数は、各品種とも先週より減少しており、最高分げつ期を迎えている。 ○ 「ヒノヒカリ」は8月2日に幼穂形成始期(平年より2日早い)となっている。「さがびより」は8月8日頃に幼穂形成始期を迎える見込みである。						

4. 普通期水稻の今後の管理について (8月7日～)

(1) 水管理

① 「夢しずく」

- ・まもなく出穂期を迎える。穂揃期までは水の要求度が高いことから、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

② 「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は幼穂形成期となっており、「さがびより」・「天使の詩」ではまもなく、「ヒヨクモチ」では8月中旬頃に幼穂形成期を迎える。
- ・中干しを完了し、間断灌水に移行する。
- ・高温・乾燥条件で過度の中干しとなり、ひび割れて白乾したような圃場で急に湛水すると根の活力が低下し、下葉の枯れを助長するため、まず走り水を行った後に間断灌水とする。

(2) 施肥

① 「ヒノヒカリ」「さがびより」穂肥

- ・必ず「穂肥診断(草丈・葉色・幼穂長の確認)」を実施し、下表を参考に施用時期が遅れないように穂肥を施用する。

※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が著しく淡く見えるので留意する。

表1. ヒノヒカリの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈 ※1	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
80cm以下	3.0以下	34以下	22~20日	1~2mm	3	20
	3.0~3.5	34~38	19~18日	3~5mm	3	20
	3.5~3.8	38~39	18~16日	5~15mm	2.5	15
	3.8以上	39以上	施用しない			
80cm以上	3.0以下	34以下	22~20日	1~2mm	2.5	15
	3.0~3.5	34~38	19~18日	3~5mm	2.5	15
	3.5~3.8	38~39	施用しない			
	3.8以上	39以上				

※1 草丈は、幼穂形成期（幼穂長1mm）を起点に、前後1日あたり1cm増減する。
 ※2 施用時期が遅れ、施用時期の幼穂長が5~15mmとなった場合、2~5割減肥する。

表2. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉色		施用時期 [^]		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
75cm以下	3.0以下	34以下	20~18日	5 mm	2.5	15
	3.0~3.5	34~38	18日	10 mm	1.6	10
	3.5~3.8	38~39	16日	15 mm	1.2	7.5
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.2以下	36以下	16~18日	10~15 mm	1.6	10
	3.3以上	37以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※ 早くても幼穂長が 5mmになっていることを確認して穂肥を施用する。
 ※ 幼穂長が15mm以上になっている圃場では、食味低下が懸念されるため穂肥は施用しない。

② 「ヒヨクモチ」穂肥 I、II

- ・分施の場合、各地区の栽培暦（表3）を参考に穂肥及び実肥を施用する。
- ・元肥に一発肥料を施用した圃場において、穂肥 I ~ II の時期に葉色がさめた（SPAD 値 40 以下）場合は、BB602 を 10kg/10a 施用する。

表3. ヒヨクモチの穂肥等基準

地区	肥料名	(現物量kg/10a)		
		穂肥 I	穂肥 II	実肥
		8/14~16頃 (幼穂形成期)	8/22~26頃 (穂肥 I の10日後)	9/8~10頃 (穂揃期)
JAさが	LPBB804	35~45	—	—
東部	BB602	25	10	10
JAさが	LPBB804	30	—	—
神埼	BB602	25	15	—

(3) 病虫害防除

- ・「病虫害発生予察情報第4号(7/26発表)による主な病虫害の8月予報は以下のとおり。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

① トビイロウンカ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。
 - ・一部圃場ではウンカの幼虫(セジロウンカ中心)が確認されている。
- ※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、圃場毎の発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期。

② コブノメイガ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。
- ・管内でも発生ほ場が散見される。
- ・止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場毎の発生状況を確認し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)。

③ 紋枯れ病・・・やや多い

- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展(垂直進展)する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂の10~20日間を目安)

④ 斑点米カメムシ類・・・やや多い

- ・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。
- ・乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7~10日後に2回目防除を行う。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

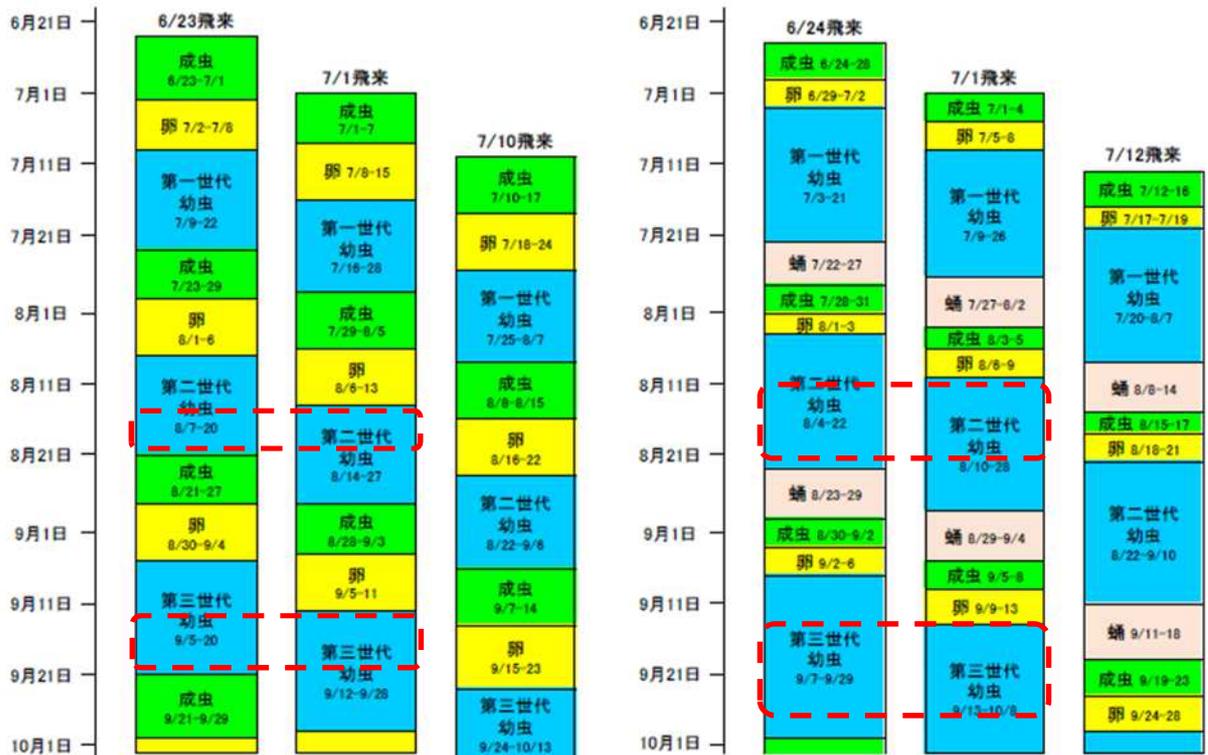


図 各世代の発生予測 (左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ)
第2版 2024年7月19日公表

- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

5. 大豆の今後の管理について

7月上旬に播種された圃場では、本葉6～7葉期となっている。

7月20日頃に播種された圃場では、本葉3～4葉期となっている。

高温乾燥条件が続き土壌の乾燥が進んでいるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

(1) 今後の天候

- ・九州北部地方の1ヶ月予報では、気温はかなり高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並みか多い予報である。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 8月7日 11時発表)

今日 07日(水)	明日 08日(木)	明後日 09日(金)	10日(土)	11日(日)	12日(月)	13日(火)
晴 	晴後時々曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 
-0/10/10	0/0/10/10	30	20	20	20	30

(2) 雑草防除

① 生育期茎葉処理

- ・イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- ・広葉の雑草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。

(3) 中耕・培土の実施

- ・本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- ・本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- ・特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

※本年は高温、少雨の影響で圃場が干ばつ傾向となっている。

気温が高い日中に中耕すると土壌水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。

◎ 培土の目安

